



歌手 井上あずみ^{さん} ゆーゆ^{さん}

今月のリブライントビューは、ジブリ映画の楽曲を数多く歌っている歌手の井上あずみさんです。アイドル歌手の時代を経て、ジブリ映画の楽曲を歌うようになった経緯や、宮崎駿監督とのエピソードなど、普段はなかなか聞くことのできない裏話も飛び出しました。また、井上あずみさんのお嬢様であり、最近歌手としてソロデビューした、ゆーゆさんも交えて、子育てについての話なども伺うことができ、とても賑やかなインタビューとなりました。

(聞き手・構成：高橋 辰三、伊藤 敬史)

——井上さんは歌手活動をされていますが、デビューのきっかけを教えてくださいませんか。

井上：私は、石川県の金沢生まれですけれども、子供の頃から歌手になりたいと思っていました。あるレコード会社の設立の際に、縁あってその会社の方が推してくださって、その第1弾歌手としてデビューすることが決まりました。

——デビュー時の音楽のジャンルはどのようなものだったのでしょうか。

井上：ポップスです。あの当時、もう29年前になりますが、シングルだけ出すアイドルは多かったんですけど、私は、デビューと同時にアルバムを発売しました。当時、画期的な、テクノポップスっぽい感じの曲でした。

——それでは、今多く歌っているようないわゆる子供向けの歌ではなかったのですか。

井上：全然違いますね。当時は、本当にアイドルとしてデビューして、松本明子さん、武田久美子さん、岩井小百合さん、森尾由美さんといったアイドルと同期でした。

——歌手になりたいと思ったのはおいくつぐらいのこと

なんですか。

井上：小学校3年か4年かちょっと忘れたんですけど、通知表の音楽の欄が空白だったことがあったんですよ。何でだろうと思ったら、先生から「いや、あなたはとっても歌が好きで、大きな声で元気よく歌うんだけど、ちょっと音程が取れてないのよね。」と言われて。心は5なんだけど、点数的には1みたいな。「だからあまりにも点数を付けられなくて。」と言われてしまいました。そのときに、初めて自分が音痴だということを知ったんです。それまで、自分は歌がうまいと思っていたんです。そのときに、歌がうまくなりたいと思って、地元の児童合唱団に入ったんですね。倍率が300倍ぐらいのところになぜか受かって。

——見事合格されたわけですね。

井上：3次試験ぐらいまであって、1次試験の課題曲の『もみじ』は毎回毎回練習していたのでうまく歌えました。2次試験まで行ったときに、ピアノに合わせて音を出してくださいと言われて、それはだいぶ外れたらしいんですけど、ただ堂々としていたことと、声がとても大きかった。そのように歌えるということがすごくよかったと言われて合格しました。

——合唱団に入ったのは何歳のときですか。

井上：小学校の4年生です。私は、小さいときから、バス停で大きな声で歌を歌って振り付けしていたって有名だったらいいんです。ずっと歌を歌っていた子でした。それで小学校4年生のときに合唱団に入って、音とはどういうものかというのを教えてもらって、自信ができました。あの当時は地元でのど自慢大会というのがたくさんあったんですね。それに片っ端から出て、そこで入賞して、そのときに、乙田修三先生という金沢ではとても有名な先生がいつも審査員長にいて、「もっと練習したらうまくなるよ、歌手になれるよ。」と言われて、小学校5年生か6年生ぐらいに乙田歌謡研究所に入ったんです。乙田歌謡研究所では演歌系の音楽をされている方が多かったです。

——やはり井上あずみさんといったら、ジブリ映画の主題歌が有名なんですけど、ジブリ映画の歌を歌うようになったきっかけを教えてくださいませんか。

井上：ちょうどデビューして3年目のときでした。当時、アイドルだけど全然売れなくて。3年上の先輩に松田聖子さん、1年上には小泉今日子さんとか石川秀美さんとか早見優さんとか、そういったすごいアイドルがたくさんいて、私たちの83年組はテレビとかラジオとかに出るすき間がなかったです。それで、私は路線を変更して『ゆうべの秘密』とか『天使の誘惑』とか、1980年代に1960年代の歌謡曲のカバー曲を歌うことが多くなったんです。そういうのをやったので、結局アイドルが好きだったファンたちがみんな離れていっちゃって。当時、学園祭にもよく出ていましたが、学園祭でも「ゆうべのことはり」と歌っちゃって、学園祭に来ている人たちはみんな、ガクっとしちゃいますよね（笑）。

——ちょっと方向性を見失っていたような（笑）。

井上：本当にそうですよ。私自身も何か違うなと思っていました。そうしたら、あるレコード会社の方から、「実を言うと、アニメのサウンドトラックの中に1曲入る曲があって、今それを歌える人を探しているんだよね。オーディションを受けてみる？」と言われたのが『天空の城ラピュタ』だったんですね。『ラピュタ』が8月公開だったんですが、お話が来たのが6月で。

——そんなぎりぎりだったんですか。

井上：ええ。普通の曲はツーコーラスあるんですけど、『ラピュタ』のエンディング挿入曲の『君をのせて』は、ワンコーラスとちょっとしかありません。何でそんなふうになったかという、久石譲さんに曲をイメージしてもらうために、宮崎駿さんがこんな感じというふうに関条書きで書いたメモがあったらしいんですね。それに久石さんが曲を付けたんです。じゃあ、これを歌にしようよという話になったときに、宮崎さんが最初にささっと書いたイメージのメモをそのまま使った方がいいんじゃないですかということで、あの歌詞になったんですって。

——なるほど。そして井上さんの声そのイメージに合ったということでしょうか。

井上：はい、合っていたみたいです。オーディションを受かって、すぐレコーディングしましょうということで。

——それまでに宮崎さんと面識はありましたか。

井上：全然ないです。

——宮崎さんの存在とか、映画とか作品はご存じでしたか。

井上：私はアニメが大好きなので、『風の谷のナウシカ』は知っていました。でも、今だとアニメというと、いろいろなアーティストがタイアップでお願いしますと言われるんですけど、『ラピュタ』の27年前は、アニメの歌というのはまだ底辺だったんです。世間ではアイドルが一番だったので。それでもこの曲がいいなと思って、歌わせてくださいと言いました。それで初めて宮崎さんに会ったときに、「デモテープを聴いたときに、すごくイメージがぴったりだったので、あのままでいいです。」と言われて、歌ったんですね。

——なるほど。『君をのせて』はそういった形で、ぎゅうぎゅうのスケジュールの中で見事決まってレコーディングという話になっていったのですね。その後もジブリ映画の音楽に携わられていますね。

井上：『ラピュタ』が終わった時点で、宮崎監督には新しい構想があって、それが『となりのトトロ』でした。私は『ラピュタ』を見たときに、素晴らしい映画で、わあ、こんなにすてきな映画に歌わせていただいと

思ったのですが、でも本当に最後の方に話が来たので、ただ歌ったという感覚でした。「次にやる作品はどんな作品なんですか。」と聞いたときに、絵コンテとかも見せていただいて、「ぜひ初めから参加させてください。」という話をレコード会社の方に言いました。それで、当時スタジオジブリのあった吉祥寺の喫茶店で、宮崎さんと鈴木敏夫さんとプロデューサーと私の4人でいろいろと話をさせていただきました。その後、久石さんの事務所に行って、今回のアルバムは、メロディーだけじゃなくて歌物にしたいとお話がありました。私も何曲か歌わせていただくことになって、『さんぽ』、『となりのトトロ』、『おかあさん』、『まいご』、『ドンドコまつり』を歌いました。

—— こういったアニメソングとかジブリの主題歌などを歌うことが多いと思うのですが、小さいお子さんと一緒に歌ったりされていて、時代とともに変化を感じることはありますか。
井上：20年ぐらいファミリーコンサートをやっているんですけど、昔は子供とおばあちゃんとお母さんとかいうファミリー層だったんですね。それが今はお父さんが多いですね。いっぱい子供たちはみんな同じですよ。やっぱりすごく元気で。何年たっても、子供は子供で、ゲームが今すごく流行ってしようと、子供は好きな曲に関してはすごく食欲だし元気だし、一緒に歌ってねと言ったら大きな声で歌ってくれるし。

—— 井上さんにはゆーゆーさんというお嬢さんがいらっやいますけど、子育てで気を付けていらっやることってありますか。

井上：自由にさせていますかね。ちょっと奔放過ぎちゃうんですけど、やりたいことをやらせています。あまり小さいときから、これをやっちゃだめとか、型にはめないようにしようと思って。だから洋服も好きなものを欲しいと言わせるようにしています。あんまり子育てしていないので(笑)。

ゆーゆー：ほとんどばあばがやっている。

井上：ほとんどばあばがやってくれていて(笑)。いや、子育てをしてないというわけじゃないんですけど、家にいないことが多いので。やっていいことと悪いことはきちんと教えています。それと自主性を尊重しています。

—— 歌手になりたいというのも、ゆーゆーさんがなりたいたい？

ゆーゆー：うん。昔から思っていたよ。

—— それはいくつぐらいのときなんですか。

ゆーゆー：だいたい3歳ぐらいのとき。

—— そうか。ゆーゆーさんもずっと小さいころから歌が好きだったんですね。

ゆーゆー：はい。

—— 歌手としてソロデビューしたのが『6さいのばら一ど』ですか。

井上：ただ私のアルバムで『ナウシカ・レクイエム』で5歳のときに1人で歌っています。レコーディングしたのはもう2歳からでしたね。

—— 物心が付いたときから歌手だったみたいな感じですかね。

井上：そうですね。歌を歌うことは本当に好きみたいで、コンサートが終わった後も、まだ歌い足りないからカラオケへ行こうとか。

ゆーゆー：よく言うよ。

井上：本当に好きなんです。

—— お母様の小さいころとそっくりな感じですかね。

井上：本当にそっくりですね。それで物おじしないで歌いますからね。普通、恥ずかしいと言うじゃないですか。この子は全然ないみたいで、これを歌ってと言ったら、いいよと言って。

ゆーゆー：普通に何でも歌っちゃう。

—— 歌手になって一番うれしかったことはどんなことですか。

ゆーゆー：ママと一緒にいられるから、それでうれしかった。

—— 最近はツアーとかも一緒に回っているのですか。

井上：はい。この夏休みなんか本当にほとんど毎日一緒にいましたね。

—— お母さんから見ても、一緒にコンサートができるというのはうれしいですね。

井上：うれしい反面、どきどきもするし、あとはやっぱ

20年ぐらいファミリーコンサートをやっていますが、何年たっても子供たちはみんな同じですよ。ゲームがすごく流行っていようと、好きな曲に関してはすごく食欲だし元気だし、一緒に歌ってねと言ったら大きな声で歌ってくれるし。

井上あずみ



り自分の用意もしなきゃいけない、でも娘の用意も、パパが半分やってくれるんですけど、彼がいないときは自分がやらなきゃいけないので、ゆーゆ、これを早く着てとか言って、それで自主性が求められます。

ゆーゆ：どこ、どこ、洋服はどこと、目がきよろきよろっと。

井上：そうそう。でもやっぱり親がやった方が実を言うとか早くできるんです。だからついつい、もういいや、私がやってあげるとやっちゃうんですよね。でもそれをぐっと我慢して、自分でやりなさいと言うのは、すごく大変なことなんです。

——ゆーゆさんの歌手ソロデビュー曲『6さいのぼら一ど』って、歌詞がすごく面白いと思うんですけど、あの歌詞に出てくることは結構当たっているんですか。

ゆーゆ：3つしか当たってない。前歯が昨日抜けたことは合っているでしょう、好きな食べ物は焼き肉でしょう。でも、パパと結婚したいし、ママより美人になるとは思わないから、そこは違う。

井上：好きな男の子は？

ゆーゆ：2人いるのは合っている。幼稚園のときはね(笑)。だから3つしか当てはまらない。

——今も好きな男の子が2人いるの？

ゆーゆ：1年生のときには9人だった(笑)。

井上：あの歌詞は、幼稚園の子を持っているお母さんの間では、うちの子もまったくこの通りと言う方が多いですね。

——ゆーゆさんはこれからどういう歌手になりたいですか。

ゆーゆ：ママみたいなみんなを笑顔にできる、みんながあこがれる歌手になりたいです。

——すごく立派な答えですね(笑)。

井上：言わせていませんよ(笑)。

——やっぱり、いつもそばで見ているから、あこがれるんですかね。

井上：確かにそうかもしれないですね。

——弁護士についてどのようなイメージをお持ちですか。

井上：日本だと、弁護士というとやっぱり費用が高いとかちょっと頼みにくいイメージがあって、何かあったときにという感じですけど、欧米では、日頃から自分のための弁護士さんがいることが多いわけじゃないですか。日本は治安がいいということもあるけれども、日本でも事故に巻き込まれることもあるので、近くの弁護士会や弁護士さんの事務所を、心に留めておくのもいいかなという気はしますよね。何か起こってしまった後に、どうしよう、どうしようというのはいい弁護士さんに巡り合わないかもしれないですよね。だから今は別に何もなければいいんですけど、何かあったときにね、というところで、身近に知り合いで誰かいないかしらとか考えておくとよいと思います。

——何かあったときにすぐ呼べる関係ということですね。

井上：はい、すぐ話ができるような関係になるといいなと思いますよね。

プロフィール いのうえ・あずみ&ゆーゆ

石川県出身。1983年歌手デビュー。スタジオジブリの初期作品に深く関わり、1986年に宮崎駿監督のアニメ映画「天空の城ラピュタ」のエンディング挿入曲「君をのせて」で抜擢された後、「となりのトトロ」「魔女の宅急便」で主題歌・挿入歌を歌う。NHKみんなのうた、CMソング、アニメソング、声優など幅広い活動を通じて、ファミリーソングの旗手として世代を超えた支持を受けている。ひとり娘・ゆーゆ(8歳)は、2012年に「6さいのぼら一ど」でデビュー。2曲目となるCMソング「おさんぽ♪」のレコーディングを終え、親子でコンサートを行っている。